

# 保健室

保育研究シート

2026年2月6日(金)

養護教諭 渡邊 満美

## 1. 子どもたちの姿

保健室では、保育室に近い4歳児がよく行き来して過ごしている。教師がそばにいて安心して過ごせる子ども、大人に手伝ってもらいながら製作をしたい子ども、友達と一緒に過ごす場所として保健室を選んできた子どもなど、様々な姿がある。3歳児は、「〇〇ちゃんがけがした」といち早く知らせに来て、後から来る先生や友達を待ったり、「泣いてるから部屋にきて」と呼びにきたりといった姿がある。こうしたことから暮らしの中に友達を感じて過ごしていることや、保健室という場が位置づきはじめていることを感じる。5歳児は、自分で必要だと感じた時に保健室を訪れ、過ごすようになっている。友達と距離を少し置き、落ち着きたい時や一人で集中したい時など、1日の流れを自分でつくり出す姿が保健室でも感じられる。

## 2. 子どもへの願い (かかわりの視点から)

異年齢の子どもたちが一緒に過ごす保健室は、どの学年の子どもにも過ごしやすい空間にしたい。

### \*自分とのかかわり

- ・けがや体調不良など、いつもと違うからだの変化に気づき、それを自分なりの方法で表現できるようになつてほしい。
- ・自分らしく過ごすことを気持ちよく感じ、過ごしてほしい。

### \*人とのかかわり

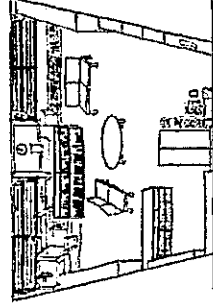
- ・異年齢の関係だからこそ感じられる、相手の気持ちや思いに気づき、受けとめられる経験を大切にしながら、自分らしい関わり方を見つけてほしい。

### \*ものごとのかかわり

- ・クラスとは違う場所を意識して、みんなが気持ちよくいられるように過ごしてほしい。
- ・異年齢がいて、様々な気持ちで過ごしている人がいること等、教師が相手を感じられるような声をかけて、自分の過ごし方を考えるきっかけにしたい。

## <保健室>

単に大人がいる部屋、静かな部屋、暖かい部屋を選んで過ごす子どもたちがいる。担任と連携しながら、子ども同士の関わりや次の遊びに自然にスムーズにつなげていくよう意識して関わる。



本に関心して

本をじっくり読みたい、遊びに関係する本を探す、遊びが少し途切れて本を読みにくる等、本に親しむ場所であり、活用する場所でもある。その時の気持ちを感じながら声かけしたり見守りしている。

ものづくり

異年齢で過ごしやすい場であることから、作り方をまねたい、一緒にやってみたい場もある。また落ち着いた場でつくりたい子どもがくることもある。担任と連携し一人一人に託して、いま必要な後助と声かけを考えながら関わる。

手当ての場で”

けがの手当てをじっくり見たい、自分でやってみたくなっていたりする。けがの手当てを見て、相手に優しくして自信をもったりする瞬間がある。自然に相手と気持ちを重ねやすい場となる。手当てをしている人、見ている人も手当てが安心につながっていく場であることを意識して関わる。

保健室は、けがや具合の悪い時に来るのはもちろんのこと、絵本も置いてあり、図書室のような機能を兼ねている。保健室では、子どもたちがクラスの枠を越えて出会う中で過ごしている。養護教諭は、けがなどへの応急処置の対応をしながら、保健室で過ごす子どもたちと関わっている。子どもたちが保健室で過ごす理由は「痛いから、もう少し休もう」「絵本を見たい」「今は静かな場所になりたい」「誰かに気持ちを受けとめてほしい」など様々である。